

名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2025 年 03 月 28 日

学部・学科名 世界教養学部国際日本学科

担当教員氏名 マルシャレンコ ヤコブエリック

1. 区分	中期留学 ・ <u>語学研修</u> ・ 海外実習
2. プログラム名称	国際日本学科春期オーストラリア英語研修
3. 渡航先国名	オーストラリア
4. 派遣期間	2025 年 02 月 14 日（金）～ 2025 年 03 月 24 日（月） 39 日間
5. 派遣先教育機関名	アデレード大学
6. 参加学生数	10 名
7. 派遣目的	英語力の強化と異文化体験
8. 派遣内容	アデレード大学 English Language Centre における 5 週間の集中英語プログラムに参加し、英語力の強化を図る。 また、ホームステイによって異文化体験を得る。
9. 成果	月曜から木曜までは集中的に英語を学んだ。また、金曜の自由選択科目では様々な角度からオーストラリアの現状について学び、問題や課題への解決策を議論することで、「世界市民」としての意識を高めた。英語力や英語でのコミュニケーションに対する自信が向上したのはもちろん、ホームステイの体験や授業内、さらには放課後の活動において世界各国から来た人々とのコミュニケーションを取らざるを得ない環境に身を置いたことで、国際社会の一員としても成長したと考える。また、参加学生からの報告や聞き取りによれば、今後も英語力の向上に加え、将来の自分について考えさせられる貴重な経験となり、オーストラリアでの 5 週間を有意義に過ごせたと言えよう。
10. 備考	

以上

私は今回オーストラリア短期英語研修に参加し、初めてのホームステイを経験した。今まで外国に旅行で行ったことがあったが、違う国の人と同じ家で生活するのは経験がなくホストファミリーに会うまでは不安と緊張でいっぱいだった。とは言っても事前にメールで連絡を取っていたので何となくホストマザーとファザーが私を歓迎してくれることは確信していた。そのため、不安や緊張の中に楽しみな気持ちもあった。アデレード空港の到着ロビーを出るとマザーが私を暖かく出迎えてくれた。ファザーは車の中にいてファザーも笑顔で私を受け入れてくれた。私のホストファミリーはマザーとファザーの2人であった。そして犬を1匹飼っている。

家は100年の歴史があるそうだが、とてもきれいで素敵な家だった。ガーデンにはたくさんの植物、そして盆栽がたくさん飾ってあった。聞いてみたところファザーは「盆栽クラブ」に所属していて、会員数は400人を超えているそうで私はとても驚いた。ファザーはほかにも「ワインクラブ」の管理人をしており、月に1,2回自宅でワインの試飲会や会議を開いている。マザーは「リサイクルショップ」で働いている。オーストラリアでは「OP shop」という。私には専用の部屋とバスルームを用意してくれた。ホストファミリーの家にはバスルームが3つあり、完全プライベートの空間がたくさんある。

授業が午前の時は、ファザーが朝ご飯を作ってくれて午後授業の時はマザーが通称「Big brunch」と言う朝昼兼用のご飯を作ってくれた。ご飯はどれも本当においしかった。

私が特にうれしかったことは、ファザーが毎朝食時にインスタントの味噌汁を出してくれたことである。私が出してくれる理由を聞くと、「ホームシックにならないように。」と答えてくれた。私は味噌汁の味よりもその心遣いに胸が熱くなった。自国の文化をすべて出すのではなく、私の文化も尊重し生活に取り入れてくれる優しさをこのホームステイで学んだ。

週末は動物園に連れて行ってもらい、初めてコアラを抱いた。そのあとは近くの公園でピクニックをして、夜はファザーの妹さんの家でバーベキューをしたり、娘さんの家でゲームセンターにあるようなドライブゲームなどを楽しんだりして素敵な休日を過ごした。

私にとって5週間はとてもあっという間だった。机で学ぶことももちろん大事だと思うが、ホストファミリーとの会話の中でインプットしたものをアウトプットする大切さを実感した。実践してみることによって定着し、自分自身にも自信がついた。初めての海外での生活がこんなにも素晴らしい経験になったのは間違いなくホストファミリーのおかげが大きい。感謝してこれからも英語を勉強し続けまたホストファミリーへ会いに行きたい。

今回の語学研修を通して私は貴重な体験をすることができました。私たちは ELC と呼ばれるアデレード大学の付属語学学校としての英語学習センターに 5 週間通っていました。その期間の中で向こうの学校で先生や他の生徒達と仲良く交流することができるのか勉強についていくことができるのか正直不安でした。

私のクラスでの授業内容は、月曜日から木曜日には前のホワイトボードに映された **vocabulary** (語彙) を見てどういう意味なのか、どういう例文ができるのか、名詞、動詞、形容詞どれに当てはまるか、教科書を読んで問題に答えたり、リスニングやラーニングをしたりしていました。授業は先生の話をつただ聞いているだけではなく、生徒も積極的に参加する形だったため授業内容も頭の中により入りやすく、理解しやすかったのが印象的でした。授業だけでなく小テストやライティングテストもあり、4 週目には世界のお祭りの歴史や内容、食べ物やアクティビティを説明するプレゼンテーションがありました。プレゼン時間が 6 分で他のクラスの人に発表しなければならず、計 8 回も行うのは初めてで、終始終わる時間がバラバラで改めて人に何かを伝える難しさを知りました。金曜日は自分たちが選出したクラスに行くことになっており、私はグローバルコミュニケーションクラスに参加し、コミュニケーションとは何か、どのようにすればよりよい会話をするすることができるのかを学んでいました。

授業後には学校が企画してくれていたアクティビティにも参加して、アデレード内で一番大きなお祭りであるフリンジフェスティバルに行ったり、ピザを食べながら交流やボードゲームをするピザパーティーに参加したりしました。留学が始まって 1, 2 週目は先生や他の生徒、ホストマザーの話すスピードや内容がうまく理解できず、会話もすぐ終わってしまっていたり、テレビをつけても英語ばかり見たり聞いたりしていたため環境が変わってしまったためかより疲れてしまうことが多々ありました。しかし途中で、これは日常生活でも英語を学ぶことができる良い機会だと考えを変えてみると、先生やホストマザーが話していること、ニュースも耳に入るようになってきてこの生活が楽しいと考えられるようになりました。休日は友人と一緒にビーチに出かけたり、ホストファミリーと一緒に時間を過ごしたり充実した日々を過ごすことができました。

今回の研修で英語を学ぶ楽しさを感じたのと同時に頭では分かっているけど話せなかった悔しさもあったためもっと英語を話せることができるように学びたいという目標を立てることができました。

私は 2024 年春休みに約 5 週間、オーストラリアのアデレード大学で語学研修に参加しました。アデレードは自然が豊かで、フレンドリーな人々が多く、とても住みやすい街でした。この研修を通じて、英語力の向上だけでなく、異文化理解や積極性を身につけることができました。

課外活動・アクティビティの内容

平日はアデレード大学の ELC (English Language Centre) で 1 日 4 時間の英語授業を受けましたが、放課後や休日にはさまざまな課外活動に参加しました。特に印象に残っているのは、現地の人々との交流や観光名所を巡った経験です。

休日にはクラスメイトと一緒にアデレードの中心街を散策しました。市場では新鮮なフルーツや地元の名物が並び、試食を勧められることもありました。店員さんに「これを試してみる？」と声をかけられ、勇気を出して英語で「Yes, please!」と答えると、にこやかに対応してくれました。こうした自然なやり取りを通じて、英語での会話に少しずつ自信を持つことができました。

また、現地のランドルモールという場所で毎日変わる路上パフォーマンスを見たことも大きな思い出です。世界各国の料理やダンスが披露される中、私は友人と一緒に日本文化のパフォーマンスも見ました。自分の文化を改めて理解し、誇りを持つことができました。さらに、他国の文化を体験し、多様性を肌で感じることができました。

実践的な英語の経験

語学研修では、リーディングやリスニングに加えてスピーキングや発音練習も重視されていました。特に、授業の一環で現地の人にインタビューを行った課題は、大きな挑戦となりました。最初は緊張してうまく話せませんでしたが、相手が笑顔で「ゆっくりで大丈夫だよ」と言ってくれたことで、リラックスして話すことができました。

また、ホストファミリーとの会話も英語力向上につながりました。ある日、ホストマザーが「今日はどうだった？」と聞いてくれた時に、最初は単語で答えるだけでしたが、次第に「授業でこういうことを習ったよ」と具体的に話せるようになりました。間違えても「伝えようとする気持ちが大事」と励ましてくれたことが、英語を話す自信につながりました。

さらに、アデレード動物園でコアラを抱っこした経験も印象的でした。ガイドさんが英語で説明してくれた内容を必死に理解しようとしたことで、リスニング力が鍛えられました。

課外活動を通じて得たこと

この研修を通じて、語学力の向上だけでなく、自分から積極的に行動する大切さを学びました。特に、現地の人と交流する中で、「間違えてもいいから自分の気持ちを伝えよう」と思えるようになったことは、大きな成長でした。

ある時、道に迷ってしまった際に、現地の人が「どこに行きたいの？」と声をかけてくれました。ジェスチャーを交えながら説明すると、親切に案内してくれたことで、困った時に助けを求める勇気を持てるようになりました。

まとめ

この 5 週間のアデレード語学研修は、私にとって大きな成長の機会となりました。英語を話すことへの抵抗がなくなり、異文化への理解も深まりました。また、現地の人々と積極的に関わることで、コミュニケーション能力や自信が身につきました。

この経験を通じて得た積極性や自信をこれからの学びに生かし、将来は国際的な場でも自分の考えを伝えられるようになりたいと考えています。